

# 滋賀の観光イノベーション グランドデザイン2030

平成31年3月15日

滋賀の観光イノベーション研究会

石井 良一	滋賀大学社会連携研究センター長・教授(主査)
一圓 泰成	(株)文教スタジオ社長
川戸 良幸	(株)琵琶湖汽船社長
紀平 健介	(株)ビワコツーリズム取締役
小出 英樹	一般社団法人近江ツーリズムボード代表理事
草野 丈太	奥伊吹観光開発(株)社長
嶋村 幸雄	ロテル・デュ・ラク総支配人
須江 雅彦	滋賀大学理事・副学長
前川 保志花	(株)保志花Pro、甲賀市観光協会観光大使
松本 伸夫	びわ湖大津プリンスホテル総支配人
南 政宏	滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科助教

## 滋賀大学研究者

上田 雄三郎	滋賀大学社会連携研究センター 主任社会連携コーディネーター
李 鍾賛	滋賀大学データサイエンス教育研究センター助教

(50音順、敬称略)

滋賀の位置づけ

滋賀の新しいツーリズムの目指す姿

産学官民連携で取り組む重点プロジェクト

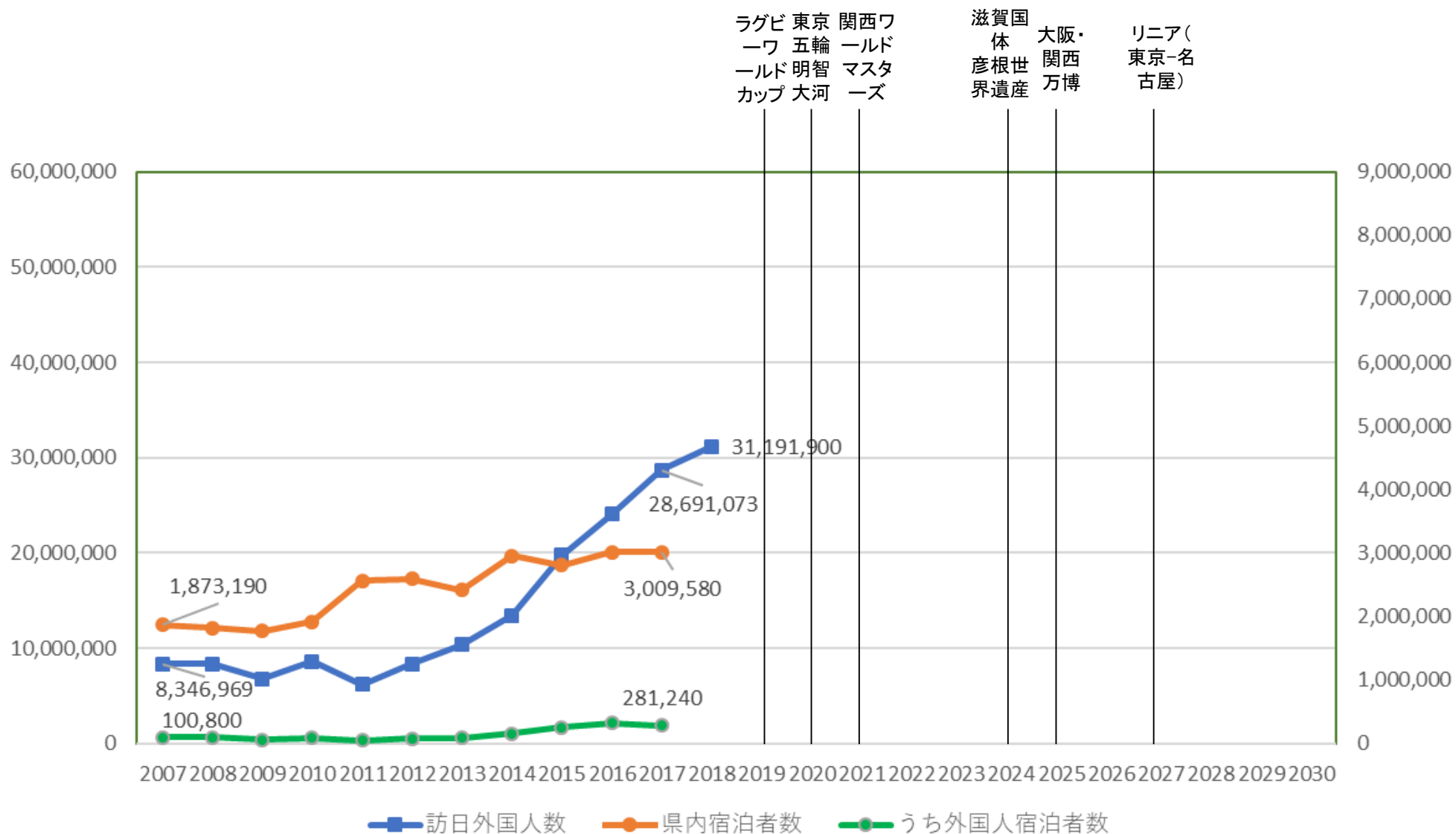
実現に向けて

# 滋賀の位置づけ

## ゴールデnrルート上でセントレアと関空の間にある滋賀は交通アクセスは良好

関西空港-大津	1時間30分
中部国際空港-米原	1時間30分
大阪-大津	40分
名古屋-米原	1時間10分
東京-米原	2時間30分





日帰り  
家族行楽

日帰り  
アウトドア

シニア  
歴史散策

- 歴史文化資源が豊かな滋賀県はシニアを中心に集客が好調だが
  - 戦国をテーマにした大河ドラマにより数年ごとに集客アップ(江(2011)、軍師官兵衛(2014)、おんな城主 直虎(2017))
  - 比叡山、三井寺、石山寺、湖東三山、湖南三山、長浜曳山祭、観音の里、...
  - 戦国時代に関する集客装置等が不十分
- 日帰り客が大半で滞在時間が短い
- 琵琶湖が観光面で十分に訴求できていない
  - 県民の琵琶湖の利用が活発でない
  - ビワイチは伸びているが、経済効果を生み出す程ではない
  - 観光業にとっての規制、慣習が存在(琵琶湖岸の河川法区域での民間商業利用が限定的など)
- 外国人観光客に対しては宿泊地としてだけの集客に留まっている
  - 京都に宿泊施設が増加した2017年には減少。びわ湖大津プリンスホテル、琵琶湖ホテル等が大半を集客、
  - 外国人に訴求できるコンテンツが少ない
- 各観光協会のイベントが単発、小規模、マンネリ
  - 花火大会、季節のイベントなど各協会のイベントが経済効果を生み出すようになっていない
- 県全体としての観光のビジョン、戦略が不明
  - 日本人シニア、外国人に顧客がシフトしている中、思い切ったビジョン、施策の展開が必要

観光産業の  
不活性化

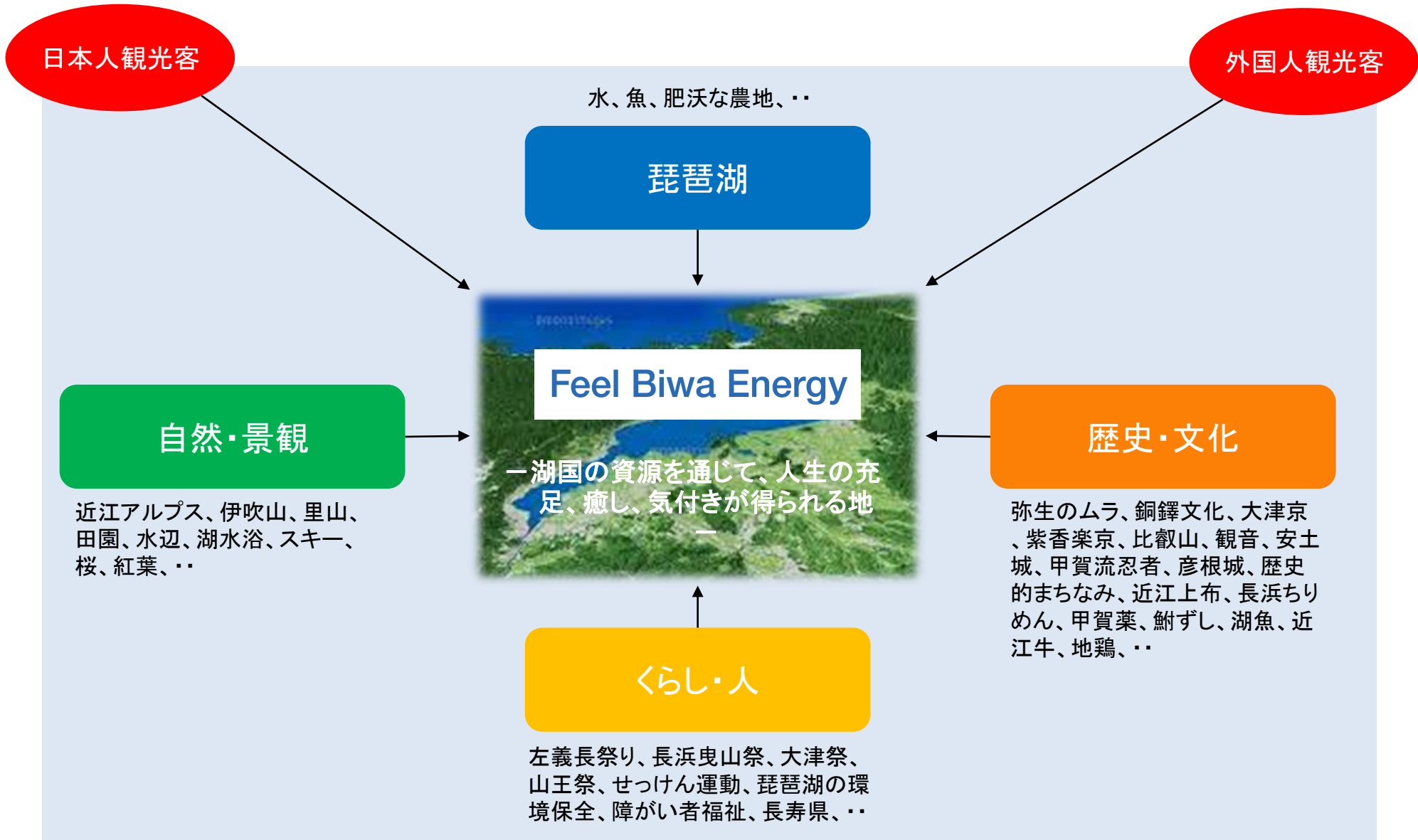
# 滋賀の新しいツーリズムの目指す姿

## 滋賀が今後ターゲットにすべき顧客像



ターゲットとする顧客層	顧客の属性
気持ちはミドル(60代)	「学ぶ」意識が高い。三世代での旅行のスポンサー。好奇心はあるものの、体力は衰える一方なので、健康には人一倍関心が強い。歴史、温泉、自然、写真などが好き。
都会のミレニアル世代(～30代後半)	可処分所得は、今後増えていく。家族・親・友人と旅行に行き、インスタ投稿。自然、アウトドアが好き。つながりを求め、自分で必要な消費を選択。
おひとりさま	自分のこだわり(歴史・グルメなど)が満たされる安心安全な旅。癒しと美の追求は、永遠のテーマ。一人でも、旅先でのふれあいや偶然を楽しむ。
アジアの富裕層	コト体験重視。家族を大切にする。デジタルが得意でSNSから情報を仕入れる。つながるのが好き。一方で、自国でのデジタル疲れを癒す上質な旅を求める。
欧米のクールジャパン層	日本文化が好き。こだわり(アニメ・和食・アウトドアなど)を求め何度も日本へ。古民家好き。東洋医学的価値観に興味がある。心と体の安寧を求める。

価値観が相似





2030年滋賀の新しいツーリズムの目指す姿

# Feel Biwa Energy

-湖国の資源を通じて、人生の充足、癒し、気付きが得られる地-

1. 歴史文化や暮らしの知恵、自然、地域の食や人々との出会いを通じて、人生の充足、癒し、気付きが得られる地として、国内外から多くのビジターを迎えている。
2. びわ湖を中心に、景観やデザインに配慮がなされ、最先端の技術も取り入れられ、外国人にとっても心地よい受け入れ環境が整備されている。
3. 官民や地域が協力し、観光による経済成長が実現している。

## 数値目標

	2017	2030
宿泊者数	301万人	500万人
うち外国人宿泊者数	28万人	100万人
経済波及効果	2,283億円	4,669億円(+2,386億円)

\*いずれも観光目的

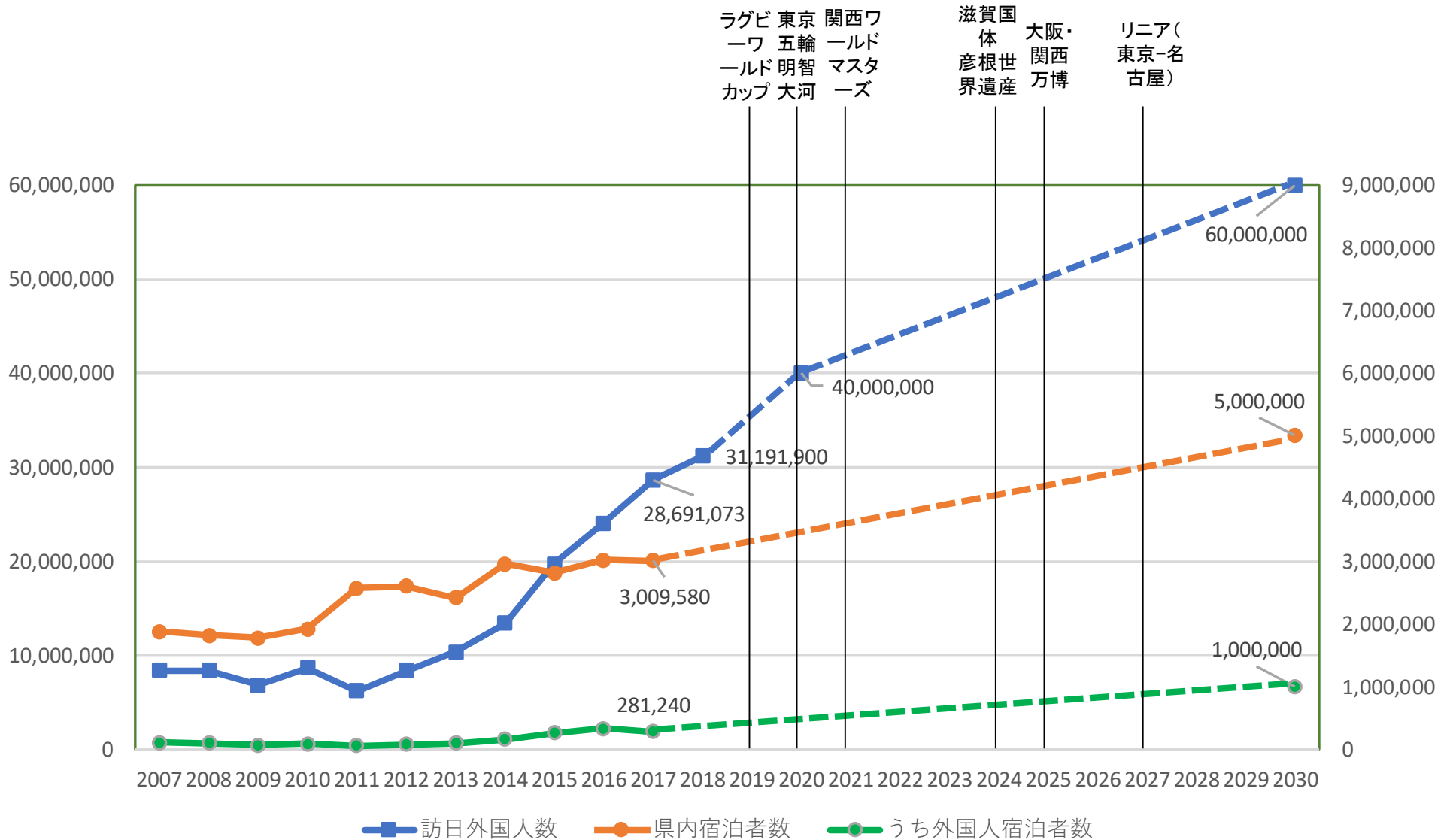
# 滋賀の新しいツーリズムの目指す姿

## 2030年に宿泊者数500万人、うち外国人宿泊者数100万人をめざす



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学社会連携研究センター



ラグビーワールドカップ  
東京五輪  
関西ワールドマスターズ  
滋賀国体  
彦根世界遺産  
大阪・関西万博  
リニア(東京-名古屋)

本資料の内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法および国際条約により保護されています。

# 滋賀の新しいツーリズムの目指す姿 観光の質を変化させる



## ■ 既存の観光施設や宿泊施設、観光協会等のサービスや情報提供方法の改革が必須。

項目	かつての観光	新しいツーリズム
顧客層	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体客・子供連れが主流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人客が中心               <ul style="list-style-type: none"> <li>－気持ちはミドル(60代)</li> <li>－都会のミレニアル世代(～30代後半)</li> <li>－おひとりさま</li> <li>－アジアの富裕層</li> <li>－欧米のクールジャパン層</li> </ul> </li> </ul>
旅行の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内きずなの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化体験、感動、地域との交流、ツーリスト同士の交流</li> </ul>
指向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行目的の重視(組織、子供満足)</li> <li>・計画達成、時間の重視</li> <li>・事前情報確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しさ、文化、アート、デザイン、本物の重視</li> <li>・ハプニングも楽しむ</li> <li>・随時情報検索</li> </ul>
宿泊形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1泊2食</li> <li>・量重視の食事</li> <li>・カラオケ、プールなどで施設内に客を囲い込む宿泊施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泊食分離、B&amp;B(ベッド&amp;ブレイクファスト)</li> <li>・質重視、地域食材重視の食事</li> <li>・上質ホテル</li> <li>・小規模宿泊施設、町家・古民家ホテル、民泊、グランピング、ゲストハウス</li> </ul>
観光形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名所旧跡、レジャーランド、観光牧場、テニス、ゴルフ、スキー</li> <li>・ホテル内、観光施設内ショッピング、定番お土産</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち歩き、史跡探訪、自然散策、体験、アウトドアスポーツ、ご当地グルメ</li> <li>・道の駅、直売所でのショッピング、こだわりお土産</li> </ul>
写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ写真</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映える写真、SNS投稿</li> </ul>

# 滋賀の新しいツーリズムの目指す姿 観光の質を変化させる



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学社会連携研究センター



グランエレメント



宿坊 和空 三井寺



たらいち邸



ツールドラックビワ



琵琶湖テラス



ラ・コリーナ



メタセコイア並木



じどりや穩座  
(淡海地鶏)

# 滋賀の新しいツーリズムの目指す姿 産学官民連携で取り組む重点プロジェクト(案)

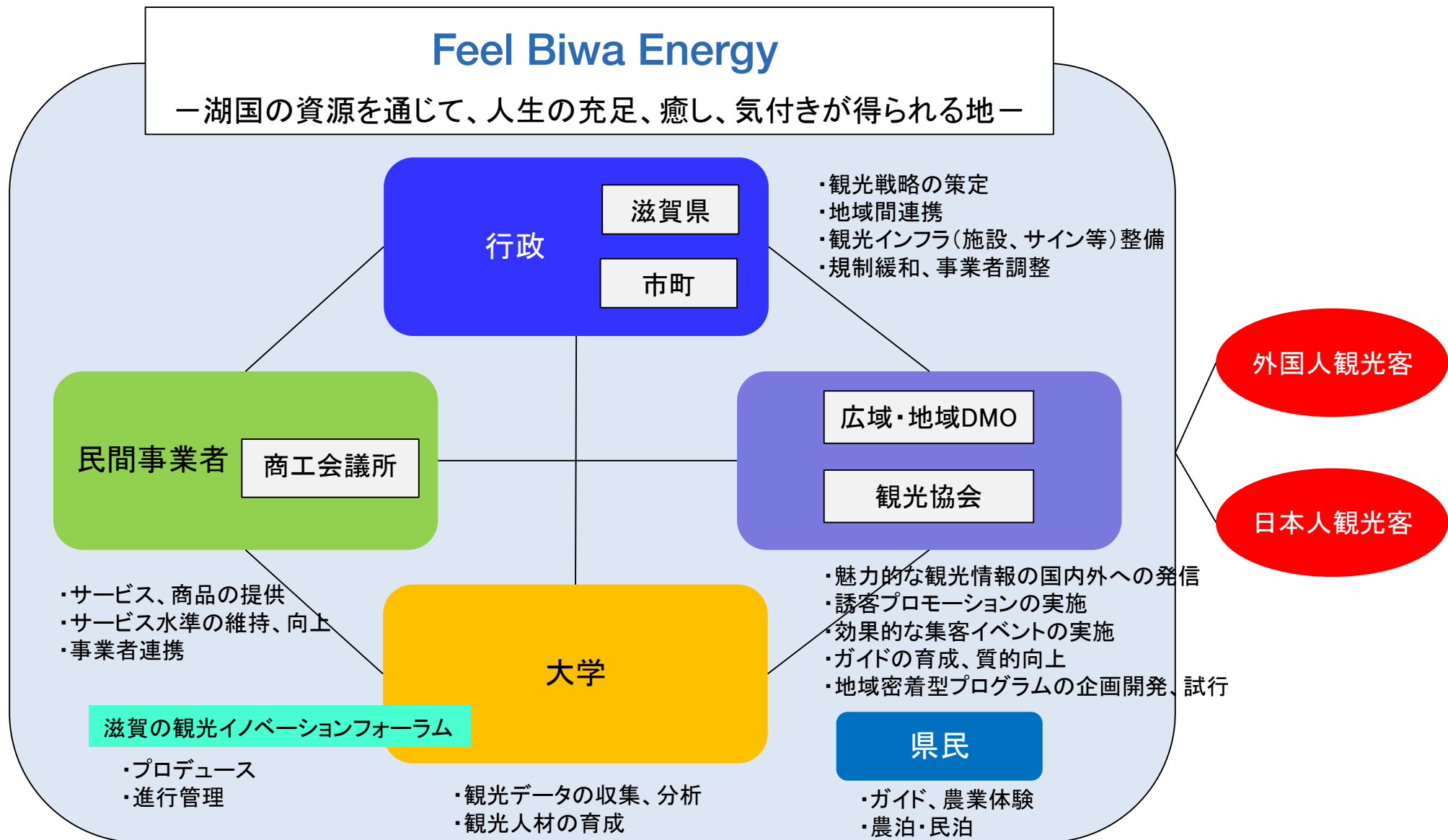


めざす姿	分類	重点プロジェクト	概要	主体
Feel Biwa Energy — 湖国の資源を通じて、 人生の充足癒し、気付きが 得られる地—	1. 湖国に泊まる	① ホテルでの湖国の休日プロジェクト	リゾートホテル、都市型観光ホテル、旅館の滞在型ステイの推進、新規誘致	ホテル、旅館
		② 湖国ステイプロジェクト	町家や古民家、寺を活用した宿泊施設、農家民泊、自然の中でのグランピング等の湖国らしい宿泊施設の整備促進	民間
	2. 湖国を巡る	③ 旅行者移動容易化プロジェクト	コミュニティバスの観光客への開放、観光タクシー、観光カーシェアの推進、自転車や手荷物の移動支援	市町、バス協会、タクシー協会、鉄道、民間
		④ 琵琶湖水上交通活性化プロジェクト	湖上タクシー、周遊船、水上飛行機、空飛ぶクルマの推進	民間、漁業組合
	3. 湖国を学ぶ、楽しむ	⑤ 新ビワイチの展開プロジェクト	ラン一周、カヌー一周、びわ湖一周トレイル、近江西国三十三所巡り等の推進	県、市町、民間
		⑥ ウェルネス/ウェルビーイングプログラムの全県展開プロジェクト	心身の癒し、健康づくり、地域との交流などに関して、体験プログラム、宿泊施設やレストランのサービス内容、質を揃えるとともに、プロモーションを展開	民間、県、市町、DMO/観光協会、大学
		⑦ インバウンド農村・文化体験ツアー推進プロジェクト	外国語ガイドによる高品質な農村、文化体験型ツアーの推進	民間、DMO/観光協会
		⑧ 近江戦国史跡バージョンアッププロジェクト	説明版、案内サインの統一、近江戦国スタンプ、博物館の連携、年間テーマの設定を実施、3年ごとに県内の史跡をメイン会場に現代アートで彩る近江戦国国際芸術祭を実施	県、市町、DMO/観光協会、民間、NO

# 滋賀の新しいツーリズムの目指す姿 産学官民連携で取り組む重点プロジェクト(案)



めざす姿	分類	重点プロジェクト	概要	主体
Feel Biwa Energy ー湖国の資源を通じて、人生の充足、癒し、気付きが得られる地ー	4. 湖国を食べる	⑨湖国至高の食プロジェクト	四季折々の湖国ならではの創作懐石料理を全県の飲食店等で競い合う	県、市町、民間、DMO/観光協会
		⑩近江の地酒ツーリズムプロジェクト	毎年新酒のシーズンに、全県で酒蔵、ワイナリーブルワリーや飲食店等をめぐるイベントを実施	酒造組合、民間、DMO/観光協会
	5. 湖国を磨く	⑪びわ湖を感じるプロジェクト	数か所のエリアを選定し、ボードウォークやフローティングレストラン、ホテルなど、びわ湖の自然や景観、デザインに配慮した活用を推進	県、市町、民間、DMO/観光協会
		⑫安土城復元プロジェクト	安土城を再建当時の姿に復元	県、近江八幡市、県民
	6. 観光振興体制強化	⑬観光協会強化プロジェクト	1市1協会化、協会の法人化、協会の旅行業登録の促進、地域DMOの強化、観光案内所の充実	県、市町、DMO/観光協会
		⑭滋賀県認定ガイド養成プロジェクト	県内の歴史文化、生活文化に精通した日本語や外国語で案内できるガイドを養成	県、市町、DMO/観光協会、県民



# 実現に向けて ツーリズム振興のための規制等の見直し



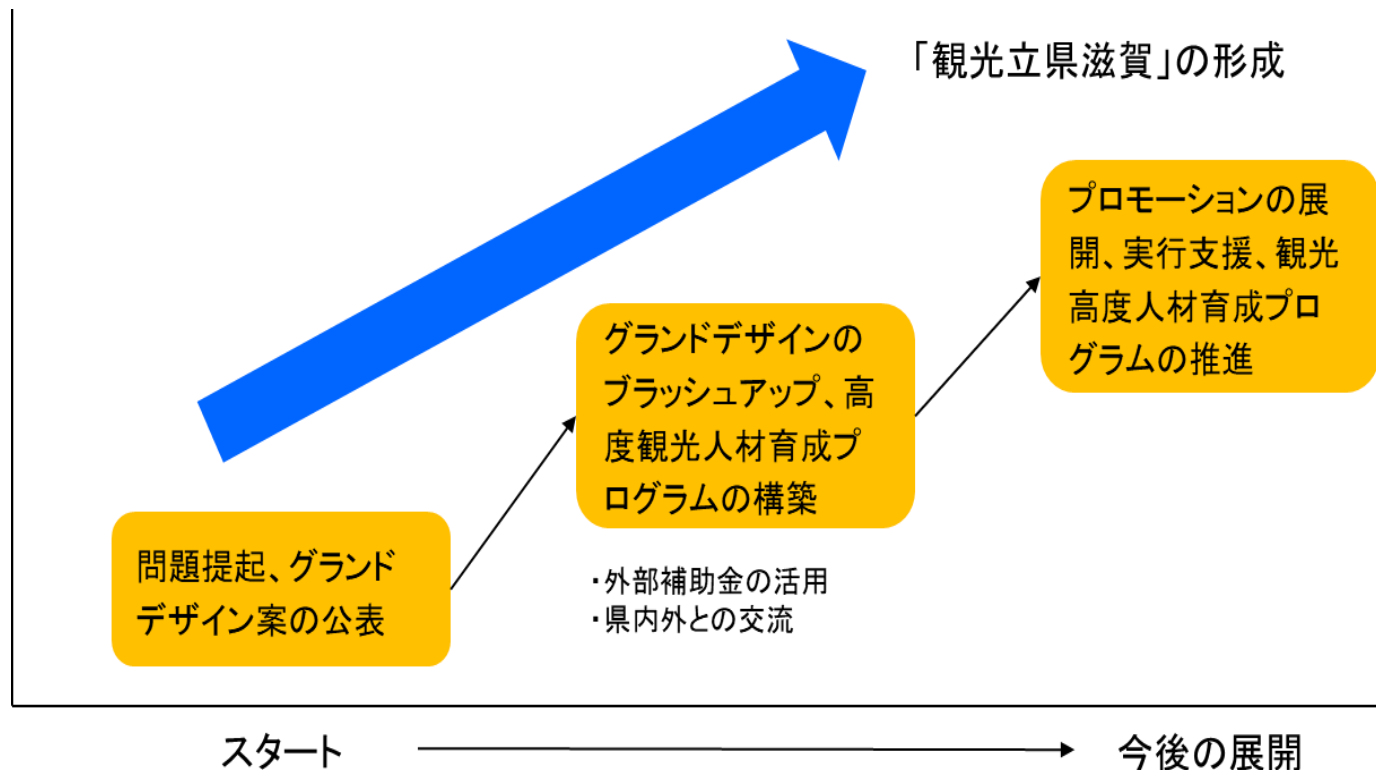
規制緩和等内容	規制の状況	所管
湖岸への商業施設の立地 湖岸におけるボードウォークの設置 湖岸における浮棧橋、フローティングレストランの設置	河川法「河川敷地占用許可準則」 ・商業施設利用は積極的に位置づけられていない。 ・県は河川敷地の商業利用を認めた2011年の国の基準緩和に沿って、17年4月に見直し。新基準は構造物設置に関して、100年に1度の洪水を想定した計画高水位(1.4メートル)で流失しないように定めている。現在、大津市が琵琶湖岸のなぎさ公園おまつり広場等で、占用許可を申請しており、今年4月に許可予定。	国土交通省 滋賀県 市町
水上飛行機離着場の設置	同上 漁業組合との調整が困難	国土交通省 滋賀県 市町
琵琶湖における漁業体験ツアーの実施	「外国人漁業規制法」 ・外国人は、漁船で漁業、水産動植物の採捕をしてはいけない。(釣りは除く)	農林水産省 滋賀県



# 実現に向けて できる所から1歩ずつ取り組もう



- 滋賀大学は、2018年秋に「滋賀の観光イノベーションフォーラム」を提唱し、思いを同じくする方々と「滋賀の観光イノベーション研究会」を設置し、本グランドデザインを取りまとめるべく議論を重ねてきた。1事業者、1自治体ではできない。産学官民が連携することで初めて実現の道が生まれる。本グランドデザインに共感する方はぜひこの取り組みに結集してほしい。みんなの叡智と行動力で、観光立県滋賀を実現していこうではないか。



# びわ湖ウエルネス/ウエルビーイングツーリズム (BWT) 推進人材育成プログラム

## ○事業概要 (現状・課題、プログラムの目的・コンセプト)

- 平均寿命で滋賀県の男性が全国1位、女性も4位 (H27) となり、長寿県として注目。琵琶湖を中心に自然や文化資源が豊富な滋賀県では、県民が日常的にウォーキングや自転車などの健康維持、スポーツ活動に参加し、発酵食品など食にも気を配っていると同時に、環境や福祉、地域づくり活動にも積極的に参加し、より良く生きる (ウエルビーイング (well-being)) 意識が高いことが理由。
- 本県の特性を活かし、滞在型観光地への転換、インバウンドの集客も狙い、全県的にウエルネス/ウエルビーイングツーリズムを推進するために、観光業界や関連業界と連携し、実践的なプログラムを通じて事業創出、事業実施を推進する中核人材の創出、育成を図る。

### ・対象者・人数

観光業界、美容、鍼灸、医療、福祉、環境業界、行政等  
20名

### ・実施場所

滋賀大学大津サテライトプラザ、県内各地

### ・実施スケジュール

9月より毎月1回

### ・総時間数

63.5時間 (自学20時間含む)

### ・受講料無料



滋賀大学

## カリキュラム内容

### ・カリキュラム概要

- 9月上旬 ウェルネスツーリズムを知る
- 10月上旬 BWTに対する滋賀のポテンシャルを学ぶ
- 11月上旬 先進事例研修 (1泊2日)
- 12月上旬 ビワイチプラスBWT、ビジネスコンテスト課題提示
- 1月上旬 ビジネスプランの作成
- 2月中旬 BWTプログラムビジネスコンテスト、修了証書授与

### ・習得できる能力

BWT推進のための滋賀の健康、食の基礎知識の習得、BWTの商品企画能力

### ・特色のある講義や研修、教育方法など

ディスカッション、ワークショップ、現地視察研修、テストツアー  
ビジネスプランコンテスト

### ・社会人が受講しやすい工夫

- ・ 利便性を考慮し、JR大津駅前の滋賀大学サテライトで実施。
- ・ 講義内容を録画し、後日自宅等での視聴を可能とする。

ビワイチ  
SAPヨガ



伊吹もぐさでの  
お灸体験



菜の花エコ  
プロジェクト



## 実施体制スキーム

産学連携で設立した「滋賀の観光イノベーションフォーラム」で、適宜助言を受けながら進める。広く県内企業と連携して進める。

滋賀経済  
同友会

(連携)

滋賀大学

(連携)

滋賀の観光イノベーション  
フォーラム (H30.11設立)  
県内観光関連事業者10名

この内容は著作権法により保護されています。



# Feel Biwa Energy